

# 岐阜の博物館

編集兼発行  
〒501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111(代)  
振替 名古屋 6 37909



## 生涯学習と博物館

加納 宏幸

岐阜市は平成8年4月1日、「生涯学習都市」宣言をおこなった。

そして、岐阜市では、生涯学習を推進するために、「まなびすと手帳」を作成した。この手帳の使い方は、同手帳の中の以下にわたり、くわしく記されている。

「市が提供する講座・教室、また婦人会館や少年自然の家などの教育文化振興事業団が提供する講座・教室をライフステージに応じて体系化し、また市内および近郊の9大学が提供する公開講座や市民の皆さんのご希望に応じて、市の職員が出向いてお話しする出前講座を加えて、長良川の清冽さをイメージして生涯学習「長良川大学」と名づけた」とある。

その中に生涯学習の意義づけを「生涯学習って、何ですか?」と問いかけて、4つに分類している。

1. 毎日が楽しいですか? (あなたは)
2. 生きがいをもっていますか?
3. 仕事に張り合いがありますか?
4. 地域で何かをしていますか?

この分類の後に、「だれもが豊かな心で生きがいをもち、充実した生き方をしたいと思っています。“学んで自分づくり、活動して地域づくり”それを実現するのが生涯学習の生き方です」と結んでいる。

岐阜市歴史博物館では、本館(当歴史博物館)と分館(加藤栄三・東一記念美術館)が連携をとりながら、生涯学習施設として、常設展のほかに、いろいろな展覧会・講演会・講座を開催している。

因みに本館の平成8年度の特別展の概要を紹介する。「秀吉と桃山文化」(大阪城天守閣所蔵の名品を通して、秀吉の波乱にとんだ生涯と秀吉の時代を彩った桃山文化)

「長安の女性たち」(大唐王朝の都長安の国際的に華やかな生活文化を、宮廷に暮らした女性たちに焦点をあてて紹介)

「遊一遊博物館」(縄文時代に生きた人々は、厳しい自然環境の中で、さまざまな暮らしを身

につけていった。当時の生活用具を実際に製作し、使用方法を体験することによって、縄文人の暮らしの知恵を考える。)

「ちょうちん大百科」(岐阜の名産品として名高い岐阜提灯が、平成7年に通産省の伝統的工芸品に指定された。これを機会に提灯の歴史や文化などを、文献・絵画・実物資料をまじえながら紹介し、日本人の生活と深い関わりをもつ提灯について考える)

また、特別展と関係深い講演会も開催した。演題のみを次にあげる。

- 「秀吉と大阪城—大阪城天守閣の名品をとおして」
  - 「唐代の美術からみた女性ファッション」
  - 「縄文造形のこころ」
  - 「伝統と現代—ちょうちんは人生する」
- 次に、分館の展覧会名だけを紹介する。これは加藤栄三・東一に関する第1展示室のものである。
- 「素描から本画へ」
  - 「風神・雷神その誕生の秘密展」
  - 「ふるさとの川・長良川展」
  - 「花鳥風月展」
  - 「栄三・東一とその仲間たち展」

本館・分館の講座は、本館9、分館4の計13の多きのにぼっている。本年度開講したどの講座も、すべて定員を2倍以上と上回っており、中でも「古文書に親しむ」(定員40名)は156名の応募があった。このような応募者の学習意欲の高まりは、「まなびすと手帳」の中にある“学んで自分づくり”の具現と考えられる。

そのために私は、博物館を「スタディサロン」にしたいと考え、実践している。「スタディサロン」とは展示をよりよく理解できるよう、また、博物館と市民、市民相互のふれあい・情報交換の場とすることである。

下記がその具体例である。

- ・交流機能……人々が郷土の歴史や文化について語り合える。
- ・休息機能……常設・特展展示室の中に休息スペースをもつ。
- ・学習機能……展示だけでは伝えきれないものをビデオ、Q&Aなどで深める。
- ・レファレンス・サービス機能…利用者の要望・疑問に答える。
- ・アミューズメント機能…楽しくおもしろく、遊びを通して学べる場をつくる。

(博物館協会常任理事 岐阜市歴史博物館館長)

M605  
を

## 第69回公開講座報告

### 「田中大秀没後150年記念講演会について」

期日 平成8年9月21日(土)  
場所 高山市市民文化会館小ホール  
講師 大野 政雄氏  
講師 秋山 虔氏

郷土の生んだ偉大な国学者田中大秀翁が亡くなられてから、今年でちょうど150年という記念すべき今年、高山市では、大々的に大秀翁を顕彰するイベントが開かれている。その中でも多くの方がご覧になられたであろう高山市歴史民俗資料館高山市郷土館で開かれた田中大秀特別展は、全国から大秀関連資料を一堂に集めその質の高さと収集品の多さにおいて衆目を集めることとなった。



そうした記念行事の一環として、去る9月21日、高山市市民文化会館小ホールに於いて、高山市教育委員会と岐阜県博物館協会との共催による記念講演会が開催された。

当日は会場時間のかなり前から列ができるほどの盛況で、150年前の郷土の偉人に対する高山市民の敬愛の深さと文化的関心の高い人たちが多くいることを実感した。私たちが席について間もなく、ほとんどの席が一杯になったように思う。

参加者の年齢層は比較的高いように思えたが、ちらほら若い方も来てみえたようだった。

講演はほぼ定刻どおり始まった。内容は「大秀さまの話」と題して、高山市文化財保護審議委員の大野政雄先生が、次に東京大学名誉教授の秋山虔先生による「源氏物語をどう読むか」についての講演が行なわれた。



大野先生は、高山ではお馴染みの、郷土史関係では大変な大先輩で、今回の講演でもその知識の奥深さが伺い知れた。

秋山先生は、国文学の世界では相当に高名な方で、そういった中央の学者にも大秀様が深く認識されていることはひとつの驚きであった。予定では9時終了とあったが、秋山先生のお話が興にのり終了時間が幾分遅くなった。

大秀様に関する記念誌を頂いた。これでもう少し田中大秀翁について学んでみようかと思う。

(機関紙委員 日下部民芸館 三島藤男)

## 第35回会員研修会報告

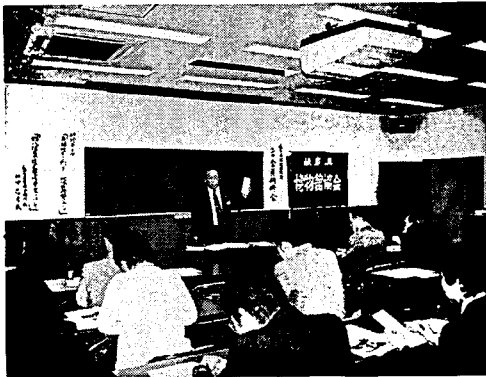
### 「郡代役宅の復元整備事業について」

期日 平成8年9月21日(土)14時～  
場所 岐阜県高山陣屋管理事務所  
講師 田中 忠彦氏  
(岐阜県高山陣屋管理事務所所長)

#### 〈講演要旨〉

高山陣屋は元禄5年高山城主金森氏が出羽の国上ノ山に移封され、飛騨が天領となり、25代の代官・郡代が江戸から派遣され、明治維新に至るまで政務を執った所である。

また全国で唯一の現存する幕府陣屋である。昭和4年に国の史跡に指定され、昭和44年12月に総合庁舎ができて移転するまで地方官庁として、元禄以来、270年余り使用されてきた建物である。

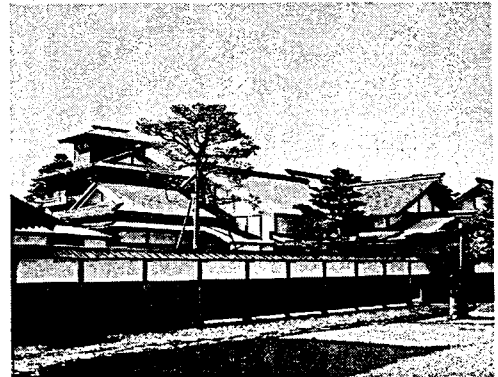


この高山陣屋は建物自体が展示品である。又木造であるために昼夜を問わず6名の警備員の方が交替で警備にあっている。防火のために、冷暖房も加熱器具もすべて電気を使用し、ストーブなどは蔵を除いて一切使用していない。

また特に維持管理がたいへんなのが樽葺きの屋根である。この樽葺きは需要があまりないので職人さんは高山にもう一人しかおられない。又20年に一度葺き替えが必要という事で予算の面でもかなりの負担である。

復元整備事業については第1次復元整備事業(昭和45～48年の御役所・御蔵等の復旧修理)、第2次(昭和54～58年の書物蔵、北・南屋根等の復旧工事)に続いて、文政13年(1830)の正確な図面の発見によって平成元年～7年度の郡代役宅及び周辺整備の第3次復元整備事業によって高山陣屋はほぼ完全に江戸時代の姿に甦った。

今後は第4次の整備事業として、古文書2万3千冊を整理保存するために収蔵庫を建設し、従来の建物自体の展示だけでなく、調度品も置いて生活感のある展示を考えていきたい。



役宅及び板塀

#### 〈見学〉

講演終了後、所長さんに陣屋を案内していただいた。

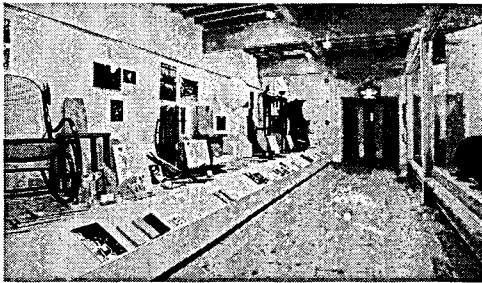
特に通常は閉鎖されている郡代役宅の2階と3階(3畳程)まであがらせていただき、しばし江戸時代にタイムスリップした。ここに昇って庭を見おろし、町中を眺めた郡代の気分浸って、参加された皆さんとともにご満悦な表情に見受けられた。

(機関紙委員 高山屋台会館 瀬木登美子)

オーク・ヴィレッジ  
森の博物館

〒506-01 大野郡清見村牧ヶ洞  
TEL 0577-68-2220

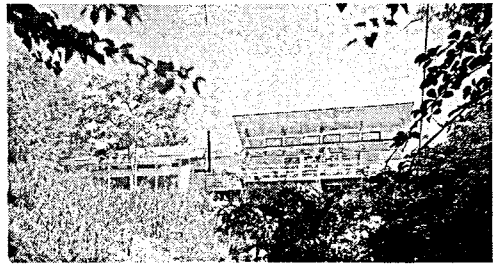
オーク・ヴィレッジ森の博物館は1995年4月にオープンした新しい博物館です。「100年かかって育った木は100年使える物に」「お椀から建物まで」「子供一人どんぐり一粒」をモットーにモノづくりに取り組んできた工芸集団オーク・ヴィレッジが20周年を迎え、豊かな森や木の文化を見つめ直そうという主旨から設立しました。



森の博物館は室内と野外からなります。室内では「日本人なら知っておきたい木30種」について写真、材の標本、生活用具や工芸作品などで展示解説をしています。生活の中で木がどのように使われているか、森の中で木はどう生きているかという視点から木を見直すことができます。



森の木が家具になるまでを紹介した「一本のナラの木の物語」では椅子や食器棚の構造を展示しています。そこでは日本の伝統工法の一つの柄が見られるようになっています。そして、漆について紹介したコーナーではウルシの木と漆掻きの道具、漆塗りの道具を展示しています。

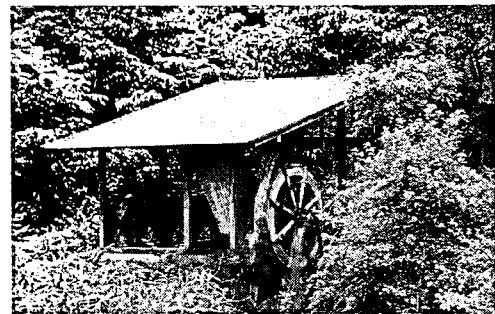


いろいろな展示物を見ながら日本の伝統技術、芸術に感動し、昔の人々の生活に思いを馳せることができるでしょう。また、いろいろな木の板見本に触れるコーナー、枝や葉の香りを楽しむコーナー、木を味わうコーナーもあります。

実際に五感を働かせて森を体験する楽しみの一端を是非試しに来てください。

野外・森の博物館はオーク・ヴィレッジの敷地内に設けられた遊歩道です。昔からここに生えていた樹、オーク・ヴィレッジのメンバーが植えた樹など50種類ほどの樹木を見ることができます。葉っぱの色や形、大きさ、それから枝の張り方、幹の肌など一つ一つ違いのある実際に生きている樹を是非見てください。また、季節によって表情を変える樹の姿、色とりどりの花とその後に見えるいろいろなタイプの実も是非ご覧ください。

遊歩道には水車を利用した木のオルゴールや森の中の小屋「ドングリハット」、大きな木の下にある見晴らしの良い「トゥリーハウス」などもあります。



○交通 ・JR高山駅からバス 牧戸行き  
徳寺前下車 徒歩5分

・JR高山駅から車で約20分

○開館時間 9:30~16:30

○休館日 12月~3月

○入館料 無料

(森の博物館 大藤智子)

## 笠松歴史民俗資料室

〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町下新町 87  
笠松小学校北舎内  
TEL 058-388-0161

笠松歴史民俗資料室は平成7年3月13日に笠松小学校の校舎の一角にオープンしました。設立して間もない歴史の新しい資料室であります。

笠松町は古くから木曾川の川湊として発展してきました。また、美濃郡代笠松陣屋や県庁も置かれ、経済だけではなく、政治の中心地としても栄えてきました。

笠松歴史資料室はこのような町の特徴を踏まえ、歴史ある笠松の貴重な資料の保存と伝統文化の継承、そして地域の人々が郷土の歴史・文化を学び、意識を高める場としていただくことを運営の基本方針としています。

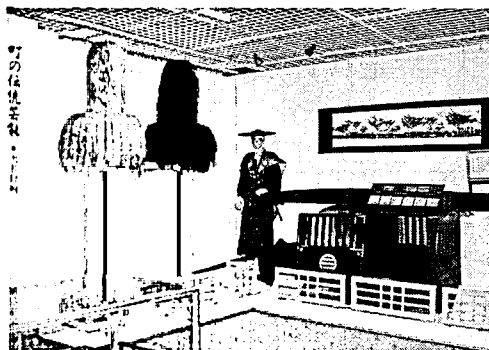
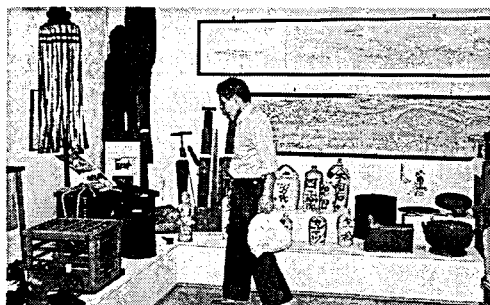
資料室は第一、第二展示室から成り立っています。

第一展示室は笠松の商工業の歴史に関する資料が展示されています。

第二展示室は政治の中心としての笠松の歴史との伝統芸能に関する資料が展示されています。

小学校の空教室の一角を利用している関係上資料の展示にはおのずと制限がありますが両展示室とも見事なディスプレイと工夫がなされ、また、笠松の郷土色もよく反映されており、資料室の方々の情熱と意欲がよく感じられます。

資料室の運営については第2～3の企画展を中核にしたいとのこと。開設した平成7年度は4回の企画展が精力的に実施され、好評でした。



内容は笠松の川祭り及び濃尾大震災の写真展、3回目は笠松の引札展、そして、笠松の隕石展でした。

また、「私のコレクション」展も実施されました。笠松在住の町民の方々のコレクション展示であり、「矢立展」「東京オリンピックに関するグッズ展」「カメラ展」等です。

そして、歴史民俗資料室友の会も組織され笠松の遺跡巡りや古文書解読が継続的に実施されてきています。

開設して間もない資料室ではありますが、知恵と工夫が随所に凝らされ、又笠松の歴史も十分に表現されており、大変わかりやすいものになっています。

将来的には本格的な歴史資料館の設立を考えているとのこと。

職員の方々の精力的な活動と親切な対応、そして、博物館運営への情熱を感じながら、「歴史の町・笠松」をあとにしました。

○開室日 月曜日～金曜日

○開室時間 9時～16時

○交通機関 名古屋鉄道笠松駅下車徒歩10分

(機関紙委員 岐阜県博物館 曾我孝司)

## 奥飛驒おもちゃ博物館

〒506-14 吉城郡上宝村新穂高温泉中尾  
TEL (0578)9-3009

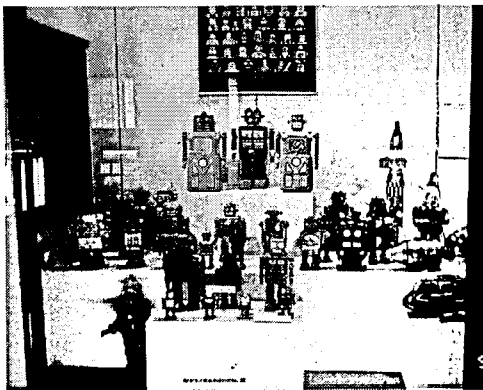
飛驒おもちゃ博物館は、奥飛驒温泉郷、雄大な北アルプス、焼岳山麓中尾温泉にある。

この博物館は、飛驒の古きよき時代の民家を保存すべく、江戸時代後期（文化5年、1808年）に建てられた豪農の屋敷を改装したものである。また館長の中畠秀人氏は20年間もの期間、日本玩具学会員として全国各地より消えつつあったさまざまなおもちゃを収集された。

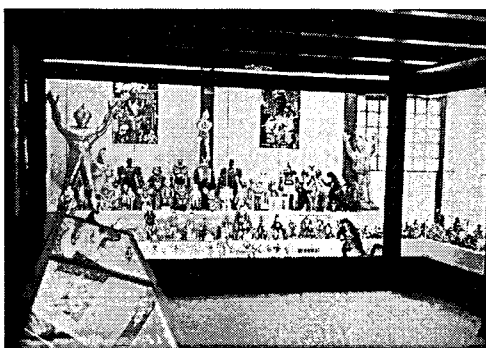
そして自然に恵まれた奥飛驒の地で、この建物と玩具を多くの方々に見て、楽しんでもらえるようにと大阪ブリキ玩具資料室長熊谷信夫氏の指導を受け、昨夏7月オープンされた。

木造二階建延400平方メートルには、中畠氏も正確に把握できないほどの約5千点のおもちゃが時代の流れによって区分されている。

展示資料は1960年代にCMで一世を風靡したダイハツミゼットDSA（鉄板ブリキ製）に始まり、ブリキ、セルロイドからプラスチックなどのおもちゃがある。



江戸時代の泥メンコからブリキの戦車、飛行機、セルロイドのキューピーちゃん。プラスチックのウルトラマン、ゴジラの怪獣の模型が順



序よく席を作り、最後に戦前の駄菓子屋が店を構える風景となっている。



奥飛驒おもちゃ博物館の案内は次のとおり。

○開館時間／5月～10月

午前7時30分～午後5時30分  
（夏休み中は午後8時30分まで）

11月～4月

午前8時～午後4時30分

○休館日／5月～10月 無休

11月～4月 火曜日休み

12月～12月28日まで休み

（展示がえのため）

○入館料／一般 800円

小中学生 500円

奥飛驒温泉郷にご宿泊のお客様は  
割引料金

一般650円、小中学校350円

・20名以上団体割引あります。

○交通機関／高山より国道158号線で平湯温泉、

栃尾温泉を経て1時間20分、JR高山

駅より新穂高行きバスで1時間30分

中尾口下車（車の送迎あり）

（機関紙委員 日下部民芸館 三島藤男）